多様化する建築- 都市に於ける新しい公共の在り方 -

- 背景 -

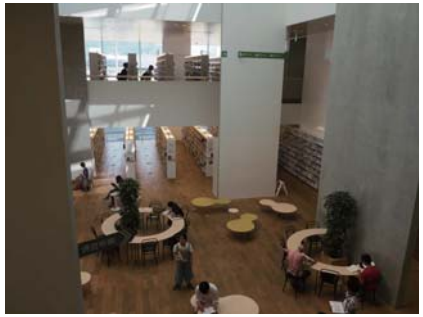
平成 22 年に内閣府より『新しい公共』※１宣言され，それ以降公共の意味が変わりつつあると私は感じている． 特に地方の公共建築は，新しい動きが活発である．地方の公共建築では，市民に滞在してもらったり，自発的に活動を行ってもらったりという動きがある．一方，都市部では，公共建築以外の建築で公共的空間が設けられ始めている．都市の中では，再開発等で設けられた公共的空間（オープンスペース）の方が公共性の高い場所さえ生まれている．

今回の計画地は，横浜市みなとみらい 21 中央地区の 52・53・54 街区とする．現在 54 街区は，計画が進行中なので，その計画を踏まえて提案する． 計画地には，キング軸･クイーン軸･グランモール軸の３つの都市軸のうち，２つの軸が通る．当地区の拠点となる駅や港への通景など，極めて重要な役割を持つ歩行空間ネットワークになっている．今回のプログラムは，公共的空間を持つ複合施設とする．みなとみらい 21 地区には，オフィス・集合住宅・商業施設・観光施設などが集合している．今回の提案敷地も商業地区であり，多くの用途が必要となる．

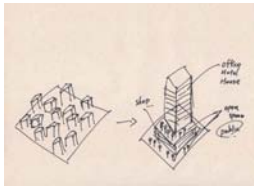
このような中で，このみなとみらい 21 地区に住む人の暮らしはどのように豊かになるのか．

横浜市みなとみらい地区という開発が進む地区で，今後の公共空間・公共建築がどうあるべきなのかを提案する．

※１内閣府ＨＰより
http://www5.cao.go.jp/npc/



地方公共建築（えんぱーく）



公民連携した再開発事業のイメージスケッチ

市民参加WSで計画された佐賀県伊万里市図書館

都市の中の公共的空間（みなとみらいグランモール軸）

- 都市の公共-

現在、都市の公共の問題点は大きく３つあると考える。

1. 公園などの OPEN な空間の OFFICIAL 化
公園という誰でも自由に使える空間が、行政などにより管理され、禁止事項が増えている。たとえば、ボール遊びの禁止・喫煙禁止などさまざまである。

2. 公共建築
図書館などの公共建築は、自分の目的の為に行き、終えたら帰るというように、それ以外の目的での使用が困難である。

3. 地域との関係
最近では小学校などの体育館を市民に開放などを行っているが、他施設ではなかなか行われていないのが現状である。

- 計画目的-

都市の中でどのように公共があるべきなのかを目的とし、その中で３つの空間に注目して研究を進める。

1. 誰もが立ち寄れ、利用できる空間

→生活する人や通勤・通学する人がいつでも立ち寄れ、気兼ねなく利用できる空間。

2. 多様な空間が存在し、様々な活動が行われる空間

→様々な用途が建物内部に取り込まれ、多くの活動が行われる空間。

3. 滞在（休憩）出来る空間

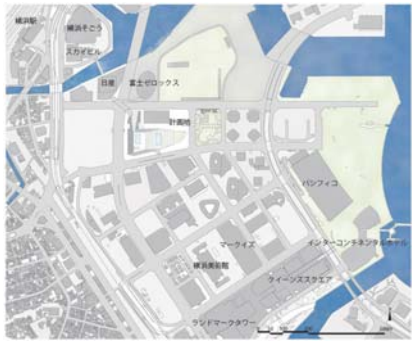
→何かをするわけではなく、休憩や話しなどが出来る空間。

- 計画敷地-

今回の計画地は、横浜市みなとみらい 21 中央地区の 52・53・54 街区とする。現在 54 街区は、計画が進行中なので、その計画を踏まえて提案する。計画地は、現在開発を待っているということで空き地になっている。周りには、みなとみらい線新高島駅・高島中央公園・集合住宅・大型商業施設・オフィスなどがある。さらに計画地の西側、57 街区には、2018 年に「みなとみらい本町小学校」が開校される。

敷地面積
52 街区　約 12,000 ㎡
53 街区　20,620.33 ㎡
54 街区　13,503.78 ㎡
合計　約 46,124.11 ㎡

参考
地図データ ©2016 Google, ZENRIN
https://www.google.co.jp/maps/@35.4596141,139.6286207,1934m/data=!3m1!1e3?hl=ja 1/



－事例研究－

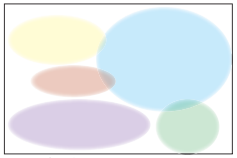
都市の中にある公共的空間を持つ建築を基に、公共的空間がどのように取り入れられているのか、空間をどのように構成しているのか考察する。
そしてこれらを基に都市に於ける新しい公共の条件とそれに必要な空間を抽出する。

NO.	竣工	作品名	主要用途	公共的空間の取り入れ方	空間構成要素
1	1975	福岡銀行	銀行	大きなピロティを設け、そこにカフェや公園を設けている。	ピロティ
2	1993	ランドマークタワー	オフィス・ホテル・店舗	建物を貫通する約200mのクイーン軸を中心にガレリア形式の ショッピングモールを形成している。	歩廊
3	1995	アクロス福岡	事務所・店舗・劇場	段々になっている面に緑化を行い、ステップガーデンと名付けられた、 公園と一体となった空間が設けられている。	緑地・レベル差・スラブ
4	1996	フジテレビ本社ビル	テレビ局	連続した空間を作るために大きなピロティのような空間が設けられている。	デッキ・ピロティ・階段
5	1997	クイーンズスクエア	事務所・劇場・ホテル・店舗	駅のホーム、改札、地上階とをつなぐ大きなボイドが設けられている。	大空間・ボイド
6	2002	オアシス21	公園・店舗・バスターミナル	地下を掘り下げ、その上に大屋根をかけている。地上階は公園になっている	人工地盤・大屋根・ボイド・緑地
7	2002	泉ガーデン	事務所・ホテル・店舗	地下鉄の駅から地上階までをレベルの違うスラブが設けられている。 さらに内部は、大きな吹き抜けを設けている。	スラブ・レベル差・ボイド
8	2003	六本木ヒルズ	事務所・店舗・住居	多くの人が訪れるので大空間の中に多くの空間を提案している。	大空間・緑地・ボイド
9	2009	日産自動車グローバル本社	事務所・ギャラリー	本社機能と自動車ショールームという大空間、それを貫くように公共通路が 設けられている。	大空間・歩廊
10	2010	コレド室町	店舗・事務所・ホール	街区の再編成が行われたが、既存の道路を残している。さらに地下に通路 を 設けている。	既存道路・歩廊
11	2013	東京スクエアーガーデン	事務所・店舗	元々2街区のものを再編成したが、今までの道路を歩行空間として残した。 さらに突き出したスラブに京町の丘という緑地を設けている。	既存道路・スラブ・緑地
12	2014	虎ノ門ヒルズ	事務所・住居・店舗・ホテル	芝生のある庭園では、建物の中にあるカフェなどが、席を外に出している。	緑地
13	2014	大手町タワー	事務所・店舗	大手町の森と呼ばれる緑地と吹き抜け空間が連続し、空間を作っている。	緑地・ボイド
14	2014	あべのハルカス	駅・店舗・オフィス・ホテル	各プログラムをつなぐように百貨店ボイド・オフィスボイド・ホテル、展望台 ボイドが設けられている。 さらに立体緑地という空中庭園を設けている。	ボイド・緑地
15	2015	豊島区役所	役所・住居・店舗・事務所	豊島の森と呼ばれる空中庭園が設けられている。	緑地
16	2015	品川シーズンテラス	事務所・店舗	下水道施設の上に人工地盤を設け、そこに緑地を設けている。	人工地盤・緑地

これらより都市に於ける新しい公共の条件と必要な空間がわかった。
都市に於ける新しい公共の条件は４つある。フレキシブルに使える空間・シンボル性・企業と一体で使える空間・多くの人のニーズにこたえられる空間の４つである。
必要な空間は、重複した空間構成要素を基に考える。全項目の特徴として多くの人が利用できるような要素になっていた。その中でも、緑地はこれからの公共的空間には欠かせないものだと考える。そして、歩廊とボイドは空間を繋ぐ役割をしていた。ランドマークタワーやクイーンズスクエアのように歩廊と商業施設を設けた空間構成で歩廊というただの歩行空間だけにせず、空間を一体的に利用している。さらにクイーンズスクエアの駅からの巨大な吹き抜けは、立体的に空間を繋ぐ役割があり、また空間を見渡せることで、様々な機能を利用しやすいようになっていた。

－都市に於ける新しい公共の条件－

・フレキシブルに使える空間（使用方法を考えることが出来る）


フレキシブルに使える空間
体育館のようにネットなどによって空間が作られる空間

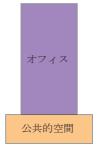
http://www.sosshikawa-park.or.jp/facilities/park/tyumatsihikaku.htmlより

・建築のシンボル性

えんぱーく：壁柱

ワテラス：アトリウム

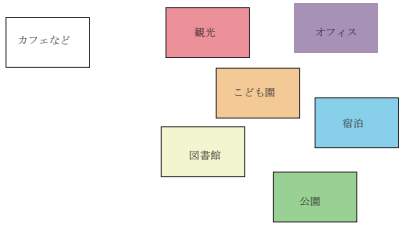
・企業と一体として使うことが出来る空間



オフィスと公共的空間は、
互いに干渉しないように
計画されているものが多い。

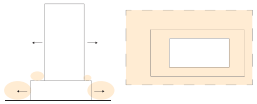
オフィスと公共的空間をセットで考える。
同一空間に公共的空間を設けることで、
市民と共同での活動が行いやすくなる。

・多くの人（住民、企業、観光客など）のニーズに応えられること
→全員に一様ではなく、個々に



－都市に於ける新しい公共を形成する３要素－

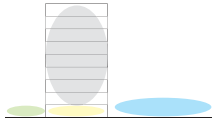
・囲う

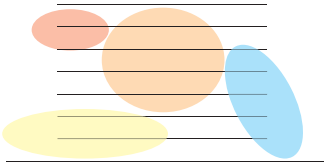

今までの公共的空間は建物の外部に計画されており、
建物との関係が一方向のみになってしまう。

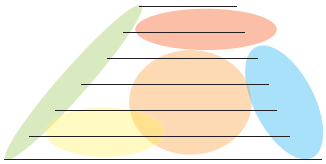
敷地を囲い、公共的空間と建物の関係を増やす。

さらに囲まれた空間の中には通路などの動線、
アルコーブ等の空間を挿入する。
この空間の中で人々は学び・遊び等を行う。

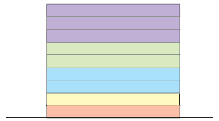
・スラブ

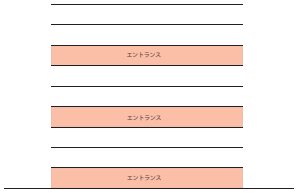

箱形の建築は、建物の内部だけで空間が
完結してしまい、外部との関係等が作りにくい。


スラブで空間を構成することで、内外の空間が
連続した空間となる。
これにより上層階でも外部との関係が持てるようになる。

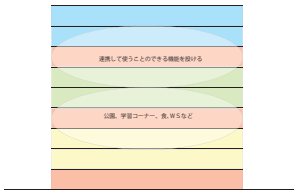

さらにスラブをセットバックさせることで
近隣の公園との関係を生み、空間の連続性が増す。
ずれたスラブには、緑化を施すことが出来る。

・エントランス


複合施設はエントランスが一か所であることが多く、
それぞれにエントランスがない。



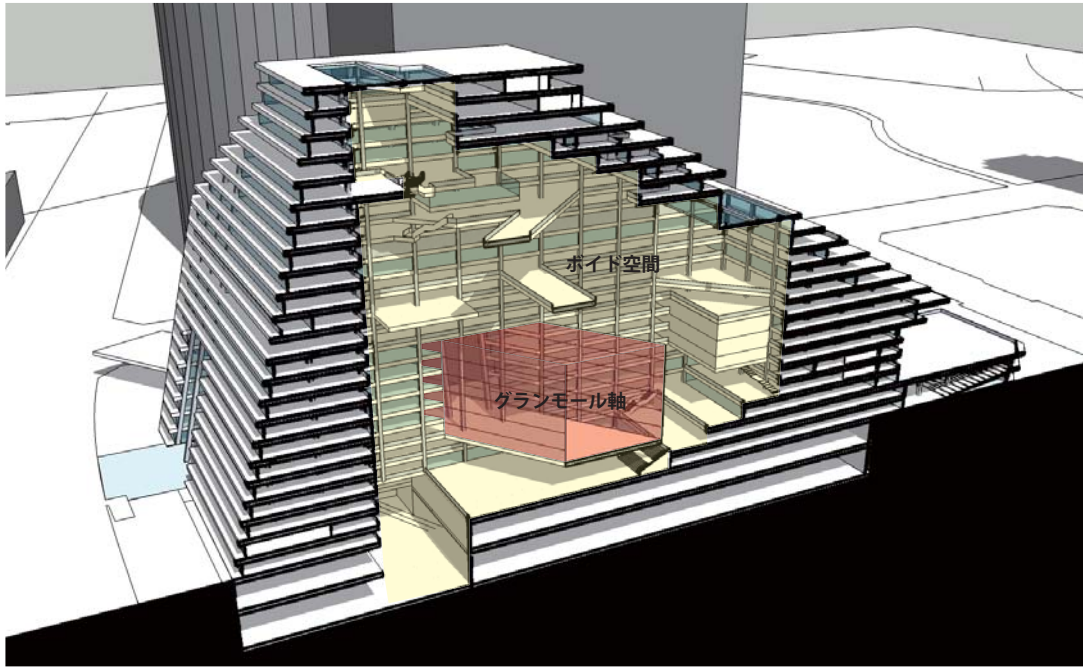
スラブで分けられた空間にエントランスを挿入する。
各用途の関係性を強めることで多様化を図る。

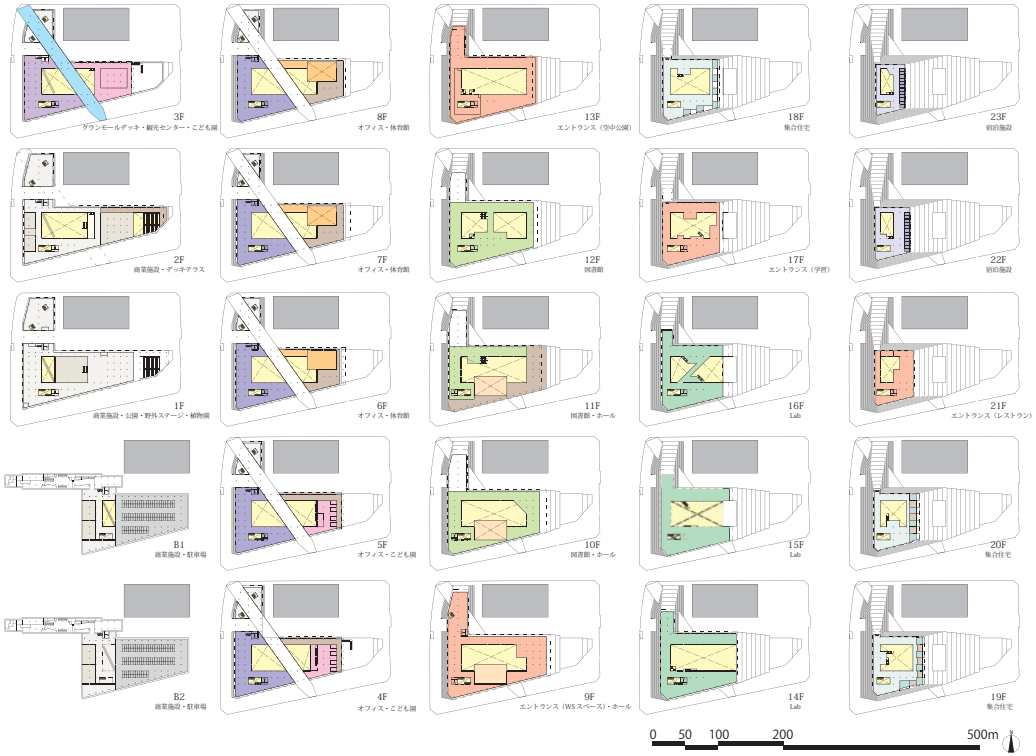


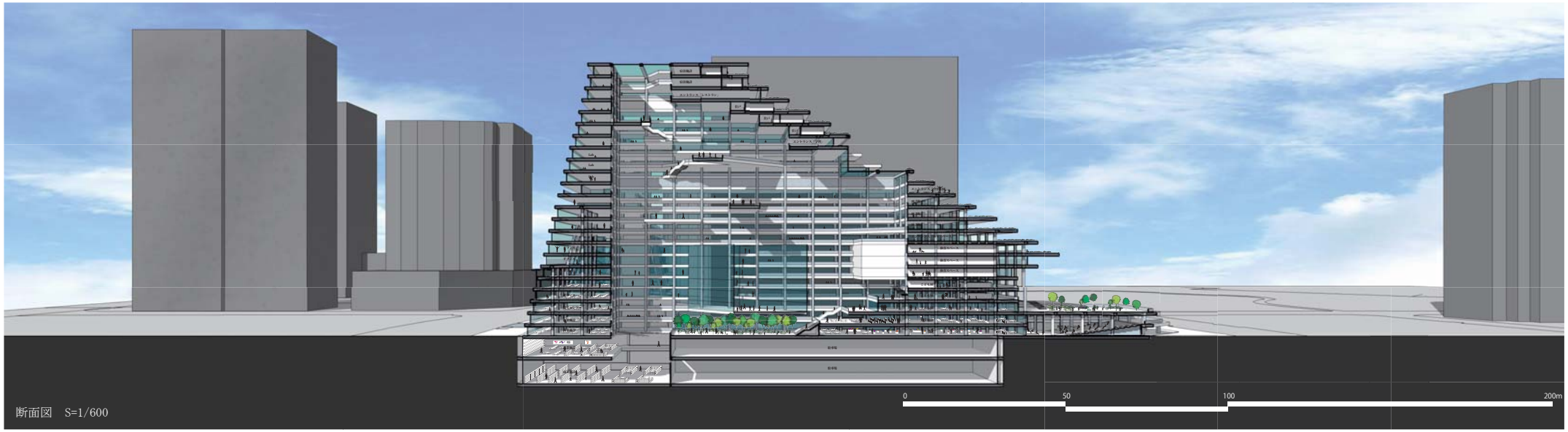
エントランスは、各用途同士での利用が可能である。
そのため、各用途で使える機能をエントランスに設ける。

－構成－

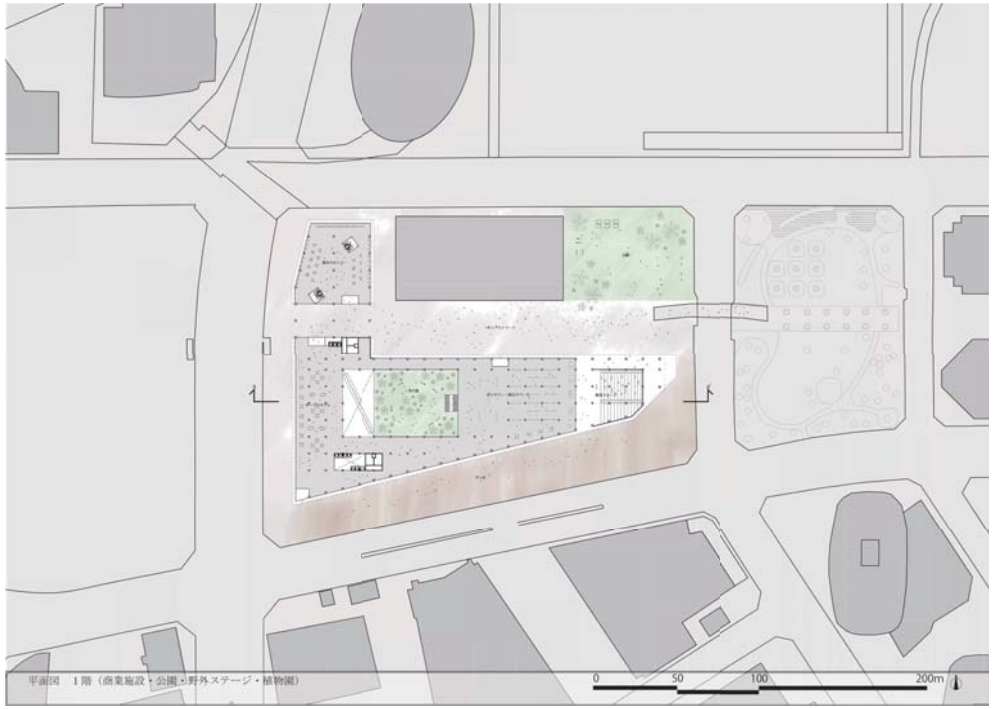
建物内部に設けられた大きなボイド空間。これにより各階の繋がり（どこで何をしているか）が増す。さらに建物を貫通するように公共歩廊（グランモール軸）がある。各階の構成はエントランスを境に３層から２層が同じプログラムになるようにしている。各階だけで完結してしまうと空間が途切れてしまうからである。さらに各用途を細かく分散することで、多くのテラス空間や休憩空間を設けることができる。誰でも自由に使える空間を多く設けることで、都市に於ける新しい公共がさらに充実すると考えた。
そして、内部やセットバックでできたテラスには緑化をすることで、今後の都市の問題である環境面にも貢献する。

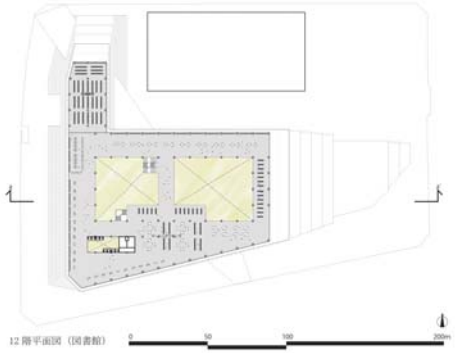


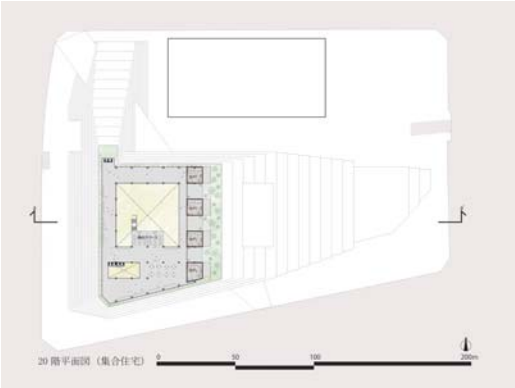


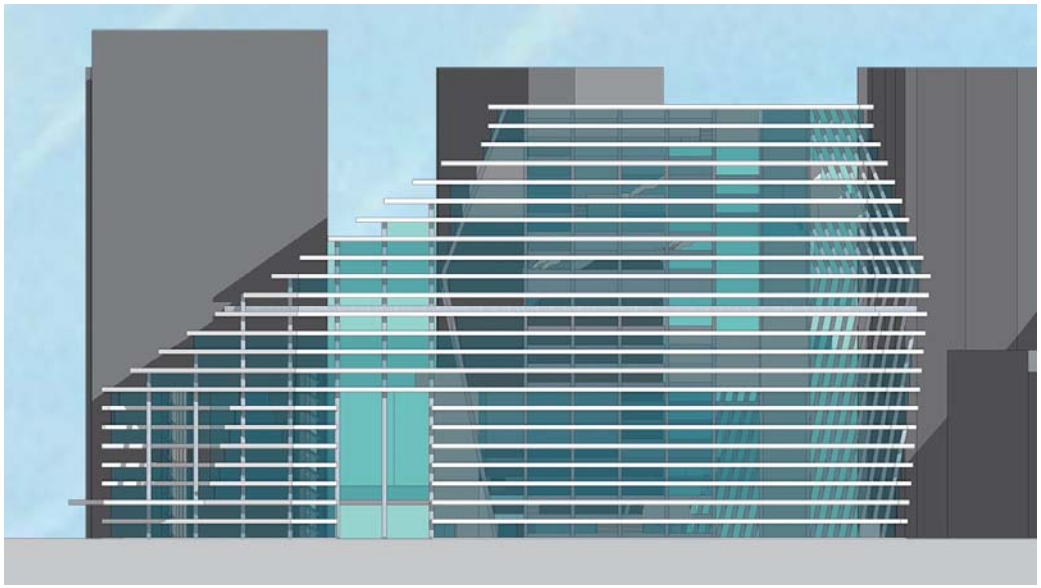


断面図　S=1/600





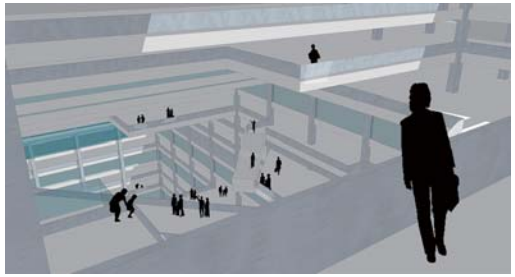




西立面図　S=1/600

0　50　100m

グランモールデッキ



宿泊施設階からボイドを望む